

小松電機産業

産業シッター用フレーム

韓国製アルミに切換え



産業用ビニールシート式シッター大手の小松電機産業（本社・島根県松江市乃木福富町、小松昭夫社長）は、近く販売開始予定であ

る主力の「門番」新製品から、フレーム材を鋼材から韓国製アルミ成形品＝写真＝に切り替える。同社は韓国に現地法人を設立するなど、海外展開を加速しており、アルミ材への切り替えも現地での組み立てが狙い。門番は1985年に発売され、国内外で累計約12万台を販売するベストセラー製品。同社は1990年に韓国現地パートナー企業と提携し、門番ブランドでのシートシッター

販売を開始。昨年5月にはソウル支社を開設した。このたび、ソウル支社を本社とする100%出資の製販子会社「小松コリア」を設立。資本金は3億ウォン（約2300万円）。同社初の海外生産拠点として、鉄骨造2階建て300平方メートルの工場を借りる。

同社は、需要地生産・アフターサービス・小規模工場を核とした「ガレージファクトリー構想」を世界展開の基礎にしている。構想実現の第一号として、まずは韓国を足掛かりに、東南アジアに拡販を進める計画。

これまで国内鋼材でフレームを製造していたが、今後の海外展開での現地施工性やメンテナンス性の良さ、材料の安定供給面に着目し、韓国製アルミ成形品の採用を決定した。